



フォーラム 認知症新時代

いきいきと暮らすために

認知症の医療とケアの実践がはじまって約20年。
いま当事者と家族はどのような日々を過ごし、
どういった支援を求めているのか…。
コロナ禍を経て激動する社会の中で、今改めて
認知症とともに生きる“共生”について考えます。
あなたが認知症になった時、どう生きますか？

2021年 **12月5日(日)**

開演：午後1時 終演予定：午後3時45分 ※途中休憩あり

※インターネットでのライブ配信です

■ **プログラム** 開演：午後1時 終演予定：午後3時45分
※午後0時30分からは主催者からのご案内が配信されます。

【第1部】 **～対談～ 繁田雅弘×町永俊雄**
「認知症の20年を振り返る」

休憩

【第2部】
・“共生”ってなんだろう？ 大牟田の歩みから
・あなたと私 みんな違っていい社会

作品名「さくら」

【画の作者】柿下 秋男さん

フォーラム 認知症新時代

いきいきと暮らすために



パネリスト

しげた まさひろ

繁田 雅弘

東京慈恵会医科大学附属病院 精神神経科
診療部長(メモリー外来)
同大学精神医学講座 教授

東京慈恵会医科大学卒業。1992年～1995年、スウェーデン・カロリンスカ研究所 研究員。1995年、東京慈恵会医科大学 精神医学講座講師を経て、2003年、東京都立保健科学大学 教授。2005年より首都大学東京 健康福祉学部 学部長。2011年より首都大学東京 副学長。今年4月より現職。日本老年精神医学会 理事・日本認知症ケア学会 理事・日本認知症学会 評議員・東京都認知症対策推進会議 副議長。「病氣と暮らしを見守る医療者でありたい」が信条。



パネリスト

ほった さとこ

堀田 聡子

慶應義塾大学大学院 教授
認知症未来共創ハブ 代表

東京大学 社会科学研究所 特任准教授、ユトレヒト大学 訪問教授などを経て2017年4月より現職。博士(国際公共政策)。人とまちづくり研究所 代表理事、日本医療政策機構 理事のほか、社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉部会(厚生労働省)などにおいて委員。学生時代から自立生活を送る障害者の介助などに携わり、人と地域がもともと持つ力の回復・再生の手がかりを探り、対話と活動を続ける。2018年に仲間たちとともに認知症未来共創ハブを始動。



パネリスト

もちづき しょうご

望月 省吾

日本認知症本人ワーキンググループ所属
かながわオレンジ大使

長年大手企業に勤務。山梨県のワイナリーに出向していた62歳の時にアルツハイマー型認知症の診断を受け、故郷の藤沢市に戻った。外出の機会が減るなかで、「何かできることはないか」と地元市役所を自ら訪ね相談。日本認知症本人ワーキンググループへの参加や、福祉施設でのマンドリン演奏ボランティア活動へとつながった。診断から16年が経つ78歳の今も活動を続け、ソムリエの資格も活かしたワイン講座なども開いている。「認知症なんて関係ない。とにかく前向きに生きていく」という思いは市内外へと広がり、今年、「かながわオレンジ大使」に選ばれた。



コーディネーター

まちなが としお

町永 俊雄

福祉ジャーナリスト

1971年NHK入局。「おはようジャーナル」キャスターとして教育、健康、福祉といった生活に関わる情報番組を担当。2004年からは「福祉ネットワーク」キャスターとして、うつ、認知症、自殺対策などの現代の福祉をテーマに、共生社会の在り方をめぐり各地でシンポジウムを開催。現在はフリーの福祉ジャーナリストとして活動を続けている。

ほか 当事者・家族の皆さま

【画の作者】

柿下 秋男さん(68)

7年前に若年性認知症と診断される。デイケアで芸術療法(ARTMaN)に触れ絵画をはじめ。表面の作品は一般向けセミナーで「直感」をテーマに描いた桜。描くうちに少年時代に過ごしたワサビ田が思い起こされ、絵に描き込んだという。右の作品はARTカフェで描いた自画像。認知症の自分へのエールとして描いた。



SHIGETAハウス(神奈川県平塚市)よりライブ配信します。

(会場での観覧はできません。)

SHIGETAハウスは、パネリストの繁田雅弘先生の生家を利用し、認知症をもつ人とその家族にとって安心できる場を目指して2018年にスタート。

地域の人のための居場所としても活動が広がっている。



■ 問い合わせ

NHK厚生文化事業団「認知症新時代フォーラム」係 電話 03-5728-6633 (平日 午前10時~午後5時)